

ご挨拶

同窓会会長 岡田忍 (3期)

五月の爽やかな風がこちよく亥鼻キャンパスを吹き渡る今日この頃ですが、同窓会会員の皆様におかれましても、新しい年度を迎え、お元気で活躍のことと思います。昨年度の総会で新しく同窓会長としてご承認いただきました3期生の岡田忍と申します。ご挨拶に先立ちまして、平成9年度から10年間会長を務められた中村前会長に同窓会を代表して感謝の意を表したいと思います。同窓会活動の様々な場でいつも適切にご判断をされていました中村前会長の後任ということで、力不足を痛感しておりますが、役員の皆様、会員の皆様のお力を借りながら、精一杯努力したいと思いますので、今度ともご支援をよろしくお願いいたします。

今年はオリンピック年で、名簿の発行年に当たります。名簿の発行には皆様からの個人票のご返送が不可欠となりますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

昨年、同窓生の皆様のお手元には千葉大学全体の同窓生の組織である校友会から、アンケートが届いたと思いますが、そのアンケート結果の一部が看護学部同窓会にも送られてまいりました。その中で、「千葉大学でのキャンパスライフから得たもので一番大きなものは何ですか」という質問に対し、「授業・研究で学んだことが現在の仕事に活かしている」と並んで「友人とのネットワーク」をあげている人が多く、大学生活というのは、生涯にわたる仲間を得る上で本当に重要な位置を占めていることを感じました。

昨年度から、入会時期が変更になり、今後は在校生も準会員として同窓会活動に参加することができるようになります。このような機会を利用して、早くから同窓会活動に関心をもってもらい、このことがひいては卒業後の同窓会活動への積極的な参加へとつながり、魅力ある同窓会活動を実現させていくのではないかと期待しております。同窓会HPの開設もきつと追い風となってくれることでしょう。会員の皆様におかれましては、今度とも看護学部同窓会活動へのご参加・ご支援をよろしくお願いいたします。

2008年度活動目標：新しい入会システムを軌道にのせるとともに、在校生や若い卒業期の同窓生が同窓会活動に積極的に参加する機会を作り、同窓会活動を活性化していく。

看護学部同窓会の皆様

看護学部長 森 恵美

草木が芽吹く新生の季節である春と新入学生を迎え、亥鼻キャンパスもにぎやかな様子を呈しております。同窓生の皆様はいかがお過ごしでしょうか。私の方はお陰様で皆様のお力添えで、どうか学部長の任を務めさせていただいております。

千葉大学からのアンケートには多くの方がご回答いただきまして、また支援要員の登録も、ありがとうございます。今年度はSEEDS基金といって千葉大学生のための奨学寄付金が始まりますし、千葉大学への協力を依頼することになりますので、よろしくお願い申し上げます。それでは、千葉大学看護学部の近況を申し上げさせていただきます。

文部科学省が高等教育改革の一環で、優れた取組をしている大学・大学院に多額の競争的資金を提供していることはご存じでしょうか。昨年、本学部ならびに看護学研究科は、これまでの実績と取組が高く評価され、新たに4つの教育プログラムについて競争的資金を獲得しました。HPのトップページに、そのうちの3つのHPが紹介されています。一つの学部・研究科でこれだけ多くの競争的資金を獲得した学部は、全国的に見ても他にはないと思いますが、同時に多額の税金が投入されることになりまして身の引き締まる思いで、これらの事業の体制づくりをしております。皆様には母校がこのように発展していることを誇りにしていただきたいと思います。また、このように充実した教育研究環境が整備されている母校に戻って看護学の学習や研究を積み重ねたいと思っていただきたいと思います。

さて、平成19年度には、3名の著明な看護学研究者に千葉大学客員教授の称号をお受けいただきました。そのうちのお一人であるペリ J. ボマー博士には、この4月より半年間、日本に滞在し、千葉大学看護学研究科で、専門看護師教育を中心にして教育研究活動に従事していただいております。

以上のように、本年度も、千葉大学憲章、「看護学部の目指すところ」http://www.n.chiba-u.jp/a_sogo_annai/al_gakubucho/al_mezasutkoro.htmlに則り、教職員一丸となって、本学部に集う看護学を学ぶ人や同窓生とともに、教育研究活動を活発に行いたいと思っています。母校は自分の実家と同じように思っていて気軽にお願いしたり、HPや千葉大学SNS[Curio]などをご利用いただいたりして、皆様からの客観的な意見やメールをお寄せいただきたく、よろしくお願い申し上げます。

(学部長室 TEL: 043-226-2375 FAX: 043-226-2379 mail: n-dean@office.chiba-u.jp)

(代表者) 中村 伸枝

本プログラムは、現在の看護学研究科博士前期課程にある専門看護師教育の充実と、専門看護師を在職のまま1年間受け入れる博士後期課程に連動した『専門看護師強化コース』の新設を核とした博士課程の教育改編であり、高度な看護実践能力と研究能力を備えた専門看護師リーダーの養成を目指しています。多職種の中で看護の専門性を示しながら活動する専門看護師には、高度なコミュニケーション能力やケア全体の構造を見越した視点、変化を生じさせるのに必要な実践能力、そして根拠に基づき他者に示すための研究能力が求められます。

本プログラムでは、看護学研究科博士前期課程において科目履修可能な新設科目「ナーシング・フィジカル・アセスメント」を開講し、高度実践看護に必要な診断技術の向上を図るとともに、専門看護師の実習を単位化して専門看護師教育の充実を図ります。また、1年間の『専門看護師強化コース』を新設し、専門看護師教育課程修了生を在職のまま受け入れ、高度看護実践に必要な知識や技術を修得する科目を提供します。在職のまま履修することで、学びを実際の現場に活用する方法を効果的に学ぶことができます。そして、『専門看護師強化コース』で修得する5～8単位のうち最大4単位を博士後期課程の履修単位として読み替え、コース修了生が博士後期課程に進学した場合には、2年間での修了を可能とします。また、全国の専門看護師のネットワーク作りとして、専門看護師ワークショップの開催やプロジェクト研究の推進を行います。さらに、専門看護師導入モデル施設を拠点とした看護管理者との協働により、専門看護師の教育や活動の環境を整備していきます。専門看護師養成の先進国である海外との連携を図り、英語教育を強化したうえで海外施設におけるCNS役割モデル研修を行うとともに、海外から専門看護師や施設管理者、教育者などを招聘した国際講演会等を開催し、最新の情報を発信します。

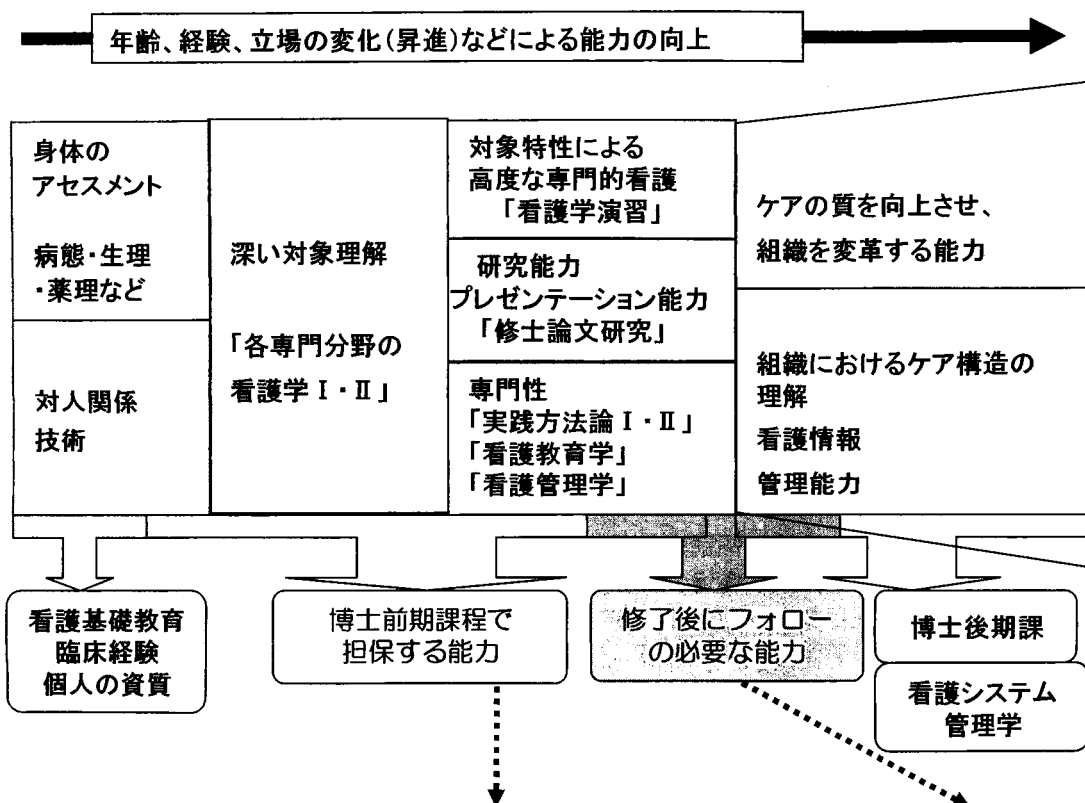
このように、この3年間には、最適と思われる教育や活動を積極的に取り入れ、その後に継続できる人材の育成やシステム構築につなげていきたいと考えます。本プログラムにより専門看護師教育が博士前期課程から博士後期課程へと体系化されることで、看護ケアの質を向上させ組織を変革するのみならず、専門看護師全体の活動を視野に入れて必要な研究を組織したり、高度実践のケアスタンダードを構築していく専門看護師のリーダー育成が可能になると考えます。また、今後さらに増加していく専門看護師の教育・活動環境が整えられていきます。このような専門看護師の活動は、少子高齢化や健康問題の多様化・複雑化が進む国民へ質の高いケアを提供するうえで重要な役割を果たすことが期待されます。

本プログラムの活動内容はホームページで公開しておりますので、

ぜひご覧下さい： <http://www.n.chiba-u.jp/cns/index.html>

お問い合わせ先： senmon-kango@office.chiba-u.jp

専門看護師育成・強化プログラムの概念図



専門看護師に必要な能力	博士前期課程	専門看護師強化コース
身体のアセスメント 病態・生理・薬理の理解	病態学Ⅰ，機能・代謝学Ⅰ 各専門分野の看護学Ⅰ・Ⅱ 〈新設科目〉 ナースィング・フィジカル・アセスメント	〈新設科目〉 CNSのための最新薬理学 CNSのための最新病態学
対人関係技術 ・対人関係	各専門分野の看護学Ⅰ・Ⅱ	
深い対象理解	各専門分野の看護学Ⅰ・Ⅱ 修士論文研究	
対象特性による高度な専門的看護	看護実践方法論Ⅱ(看護倫理) 看護学演習 修士論文研究	
研究能力 プレゼンテーション能力	修士論文研究	
専門性 ・看護理論 ・看護教育 ・コンサルテーション ・コーディネート	看護教育学Ⅰ 看護実践方法論Ⅰ (看護理論・コンサルテーション) 修士論文研究 CNS実習	〈新設科目〉 コンサルテーション実践強化演習 リーダーシップ実践強化演習
ケアの質を向上させ、組織を変革する能力	看護実践方法論Ⅱ(看護政策) 看護管理学	〈新設科目〉 組織における高度実践看護論 CNS研修
組織におけるケア構造の理解 管理能力	看護管理学 保健学Ⅱ	



国立大学法人 千葉大学
National University Corporation
Chiba University

訪問看護師として再就職したい看護職者を支援する

学び直しプログラム

地域看護システム管理学 吉本照子

現在、国の在宅ケア推進の政策により、24 時間体制の訪問看護が期待されていますが、訪問看護師の量的確保は困難な状況にあります。一方、訪問看護の大きな社会的ニーズと発展性を感じている施設内看護職者や離職中の看護職者の方々におきましては、自己のフィジカルアセスメント能力や最新の在宅看護技術、また医師等との連携に自信を持てず、再チャレンジをためらうことも多いと思われます。本プログラムでは、訪問看護師として再就職したい看護職者を対象に、フィジカルアセスメント能力、最新の在宅看護の知識・技術とその基盤を補強し、自律的な訪問看護師として十分な課題解決能力を得るための学び直しプログラムを実施いたします。対象とする看護職者は、主に、病院に勤務中または育児等による休職・離職中であって、今後訪問看護師として就職したい方、あるいは訪問看護師として基盤強化の必要を感じている方を想定しております。

従来の訪問看護師養成研修と異なる特徴は、年代、教育履歴あるいは離職期間等の背景により学び直しニーズの異なる各々の受講者に対し、個別的で系統的な教育プログラムとするための導入科目を開講し、実践力を保証するための実習方法・環境を調整して、自律的な活動の基盤となる主体的な課題解決スキルを開発するための授業科目を開講することです。これらの特徴をもとに、多様な背景の受講者を受け入れ、主体的な課題設定と学習基盤のレベリングを行い、就業意欲の高い訪問看護師への学び直しを支援していきます。詳細は <http://www.n.chiba-u.jp/manabi/index.html> をご覧ください。

【プログラムの概要】

期間：2008 年 10 月～2008 年 12 月 場所：千葉大学看護学部（但し実習を除く）

費用：30,000 円（テキスト代、受講費を含む） 募集人数：25 名

受講資格：看護師・准看護師の免許をお持ちの方（現在仕事についているか否かは問いません）

【受講申込方法】

ホームページ上に掲載されている必要事項を明記の上、郵送またはメールにてご応募ください。

募集期間：平成 20 年 4 月 1 日（火）～平成 20 年 7 月 25 日（金）必着

E-mail：manabi-homon@office.chiba-u.jp

現在、看護や教育の場が急速に変化する中で、なぜ自分が職業人としてその場を選び、そこで仕事を続けるのかを自らに問い、「学び直し」、自ら答えを見出す必要があると思います。

同窓生の皆様をはじめ、同窓生ではない職場の方々でも興味のある方がいらっしゃいましたらご紹介ください。皆様のご参加をお待ちしています。

平成 20 年度千葉大学大学院看護学研究科説明会案内

—博士前期・後期課程及び修士課程対象—

参加を希望される方は、平成 20 年 6 月 23 日（月）17：00 までに、お名前・ご住所・電話番号・E メール・決定していれば志望教育研究分野を記載し、「大学院説明会参加希望」と明記の上、ハガキ、FAX、E メール等でお申込み下さい。

日 時：平成 20 年 6 月 28 日（土）集合時間 12：50、開催時間 13：00

場 所：千葉大学看護学部 講義・実習室（2 階）

内 容：研究科の概要と特色、カリキュラムの説明、大学院生からのメッセージ
専攻別質問コーナー、大学院生との交流

お問い合わせ・お申込み先：〒260-8672 千葉市中央区亥鼻 1-8-1 看護学部大学院担当

TEL 043-226-2450, FAX 043-226-2382 E メール：tae5667@office.chiba-u.jp

千葉大学看護学部ホームページ：<http://www.n.chiba-u.jp/>

がんプロフェッショナル養成プラン

関東広域多職種がん専門家チーム養成拠点

「がんプロフェッショナル養成プラン」は、がん医療の担い手となる高度な知識・技術を持つがん治療の専門医師、専門看護師、専門薬剤師、専門医学物理士など、がんに特化した医療人材の養成を行うため、大学病院等との有機的かつ円滑な連携のもとに行われる大学院プログラムを、文部科学省が支援するプロジェクトです。千葉大学では2007年度から、筑波大学、埼玉医科大学と共同して、「関東広域多職種がん専門家チーム養成拠点」プログラムを展開しており、具体的には大学院生用の「腫瘍専門医コース」「コメディカル養成コース」と、大学院修了者、医療従事者向けの「インテンシブコース」の3コースが用意されています。看護師のためのコースとしては、「コメディカル養成コース」の「がん看護専門看護師養成コース」と、「インテンシブコース」の「抗がん剤静脈投与の理論と実践コース」があります。

「がん看護専門看護師養成コース」は日本看護系大学協議会のがん看護専門看護師教育課程基準を満たして認可されている大学院に開設されています（筑波大学・埼玉医科大学は認定準備中）。がん看護専門看護師になるためには、これら日本看護系大学協議会の認定を受けた大学院に進学後、専門看護師認定試験受験につながる単位を取得する必要があります。がんプロフェッショナル養成プランでは、各専門家養成のために必要な講義を、大学、職種の壁を取り払いe・ラーニング講義という形態で受講できるように計画を推進しており、各大学独自に展開される教育課程にプラスして、自分の職種に限らず自他の大学のe・ラーニング講義を受講することで、がん看護・医療の知識に広がりとし深みを持たせることができます。また、e・ラーニング講義は、自分の好きな時間に、全ての講義コンテンツの中から必要な講義、または学習したい講義を選んで受講することができるという利点があり、自分のペースで学習をしていくことができます。

インテンシブコースは、連携病院の医療従事者以外にも、広く関東圏の医療従事者を対象としています。昨年度は看護師向けのコースとしては、最近のがん化学療法の場合が入院から外来へシフトしてきたことを受け「抗がん剤静脈投与の理論と実践－安全性とQOLを確保するためのシステムアプローチ」と題して、化学療法の理論、外来化学療法を受ける患者を対象とした最新の看護研究の紹介、抗がん剤漏出時の対応など、講義と実習をまじえて2日間の日程でインテンシブコースを開催し好評を得ました。今年度以降もインテンシブコースでは、その時々で臨床でニーズの高いトピックスを、基礎的な理論から最新の知見・看護研究をおりまぜて展開し、次の日からの看護実践に生かせるものを提供していきたいと考えております。

また、がん医療に携わる職種は医師・看護師・放射線技師・ソーシャルワーカーなど多職種であるため、専門性を深めるだけでなく、それぞれの職種が共同して働くことができるようにチーム医療について学べる場も準備されています。

このように、がんプロフェッショナル養成プランにより、看護師に限らず、より専門性の高い知識と技術を身につけた医療人が育成されることを通して、より良い患者中心の医療が実現され、がん診療全体の向上につながると考えております。これを読んで興味を持たれた方は是非 <http://expert.umin.jp/> をのぞいてみてください。

千葉大学現代GP 自律した医療組織人育成の教育プログラム

一 専門職連携能力をコアに置いた人材育成 一

亥鼻 IPE が始まりました！

亥鼻 IPE とは、亥鼻キャンパスで展開されている、専門職連携教育 (Inter Professional Education) のことです。(いのはないっぺでもいいですが、できればいのなはいびーいーと読んでください.)
千葉大学は医学部、薬学部、看護学部という同規模の3つの医療系学部を同じ亥鼻キャンパス内に有しており、3学部ともそれぞれの学問領域において全国区で活躍する卒業生を輩出してきました。しかしこれまで、決して医学部、薬学部、看護学部間の連携協働に力を入れていたわけではありませんでした。時代が変わり、3学部とも高度な研究、実践能力だけではなく、チーム医療を実践できる人材育成が臨床の現場から求められるようになりました。また学生からも学部間連携教育の要望が出されるようになっていました。そこで私たち3学部の教員はチーム医療を推進できる自律した医療人を育成する必要を感じ、国内外の先駆的取り組み事例の視察や文献検討をもとに千葉大学医学部、看護学部、薬学部の専門職連携教育プログラム（以下亥鼻 IPE）を開発し、2007年度からスタートさせました。看護学部はこのプロジェクトにおいてリーダーシップを発揮し教育プログラム開発、実施、評価の中心的役割を担っています。この取り組みが文部科学省から評価され、平成19年度現代的教育ニーズ取組支援プログラムに選定されました。本取り組みの概要については、ホームページをご参照ください。http://www.p.chiba-u.ac.jp/ipe/about_IPE_project.html そしていつか千葉県のようなフィールドにそれぞれの学生から構成された実習チームが実習におじゃますることがあるかもしれません。千葉大学卒業生として応援や支援をお願い致します。

尚、平成19年度現代的教育ニーズ取組支援プログラムに選定された理由は文部科学省のホームページでご覧になれます。http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/19/07/07072005/003/005/001.htm

(4期生宮崎美砂子、1期生山本利江、5期生酒井郁子)

千葉大学両立支援企画室について

平成18年度より、千葉大学両立支援企画室が設置され、看護学部の森恵美先生が室長に任命されました。全学的な取り組みの一つとして、同窓生の皆様にご紹介したいと思います。具体的な活動内容については、HPをご覧ください

(<http://www.gakuzyutsu.chiba-u.jp/index.html>)。以下に、HPから抜粋した室長のご挨拶を掲載させていただきます。

本企画室の目的は、本学職員による子育てと研究等の両立支援に関する総合的施策の策定及び推進について、検討・提言・実行することです。そこで、教職員が教育研究等と妊娠・出産・育児等と両立して学内外における活動が支障なく行えるように、支援体制づくりと人的・物的環境整備に係わる活動を企画・展開することを行動目標として、以下の3つの事業を行うことにしました。1. 個人のキャリア意識啓発と能力開発、2. 大学内の雇用環境整備、3. 両立支援のための規程等整備です。

私は、本学の教職員すべてを対象として仕事と家庭生活の両立を支援するための両立支援企画室室長という立場をいただき、やり甲斐と同時に責任の重さを痛感しました。室員に指名された先生方も、本企画室の役割の大きさから、意欲や戸惑いなどを感じられたと思います。そのような中、室員の共同が進み、本企画室が設置された平成18年度末には、学長裁量経費を獲得し、女性研究者（教員、博士後期課程学生）に対して質問紙調査を行うことができました。さらに、この調査によって女性研究者のニーズを分析した結果から、千葉大学モデルを考案し、JSTの平成19年度「女性研究者支援モデル育成」事業に申請しました。その結果、申請しました「支援循環型体制による女性研究者育成モデル」が採択され、両立支援企画室の役割が拡大しているところで、嬉しい悲鳴をあげながら、事業を推進しております。

私たち、両立支援企画室の室員は、この「支援循環型体制による女性研究者育成モデル」の実施を契機にして、千葉大学における両立支援、男女共同参画を推進する活動をしております。仕事と生活の両立は、働いている人みんなが持っている共通の課題であります。女性・男性、教員・職員など、性別や仕事の内容は違いますが、仕事と生活の両立をすることはどの方でも難しい時代になってきていると思います。そのような意味で、両立支援企画室は、千葉大学の職員が自分の仕事と生活の両立を確認したり、自分のキャリア発達や健康などを考え仕事のやり方を調節したりできるように、支援します。4月から就任した齋藤康学長もこの活動には強い関心とご高配をいただき、次世代育成の観点からの事業へと拡大するようご示唆をいただいています。「仕事と生活の両立はお互い様のこと」として、互いに助け合いながら、キャリア形成していけるように、私たちが千葉大学の環境作りを提案して参りますので、是非積極的なご協力をよろしくお願い申し上げます。

平成 20 年度千葉大学看護学部同窓会企画
看護学部今昔：進み続ける看護学部・わたし達
－同窓会を通じてつながろう－

日時：平成 20 年 7 月 5 日(土) 13:00～15:00
会場：千葉大学看護学部 (場所は当日掲示予定)

(同窓会企画終了後 15:10 より平成 20 年度総会を行います)

平成 20 年度の千葉大学看護学部同窓会では、卒業生に加え、学部や大学院の在学生そして教員の参加も予定しています。同窓会を通じてお互いに情報交換や交流を深め、ネットワークをどんどん広げましょう。

卒業生と在学生が同窓会を通じてつながることによって、卒業生の方には人生の先輩として在学生にご助言をいただき、また現代の大学生の考えやニーズを知る機会にもなります。在学生の皆さんには、就職や人生等について実践的なアドバイスをもらえる機会となります。もしかすると、これがきっかけで進路を決めたり、共同研究者が見つかったりするかもしれません。新たなプロジェクトが立ち上がるかもしれません。こうしてつながることによって、わたし達だけでなく、誕生後 30 年を過ぎた千葉大学看護学部がさらなる情報の発信・交流の場そして知識蓄積の場となることを推し進めます。このように本年度の同窓会では、常により高きものをめざし進み続ける有機体としての千葉大学看護学部の構築への足がかりとなるような、卒業生、恩師の先生方そして在学生をつなぐ企画を構想しております。多くの方のご参加をお待ちしております。

卒業生

千葉大学看護学部同窓会

仕事・教育・研究・人材育成の
ソーシャルネットワーク

学部生 教員 大学院生

千葉大学看護学部・看護学研究科

第1部 「中村宣生先生とともに語る 看護学部の今昔」 13:00～13:50



病理学をご専門に、看護学部で教鞭をとっていらっしゃった中村宣生先生を囲み、看護学部開設のいきさつや黎明期を振り返りたいと思います。まだ、日本国内に4年制の看護学部がごく少数であった頃、先生方が看護学確立のために努力されたことなどを知り、看護学の変化とともに看護や看護教育のありかたを考えたいと思います。

中村先生の素敵な笑顔とともに、ざっくばらんに意見交換を行い、お互いの親睦を深めたいと考えております。

第2部 「お互いに色々なことを知り合おう 看護学部は資源の宝庫」 14:00～15:00

参加者の皆様より「卒業生に聞きたいこと」「学部生や後輩に聞きたいこと」「教員に聞きたいこと」「今興味を持っていること」等というテーマで、ご意見やご質問をいただき、その内容ごとにそれぞれ情報交換や談話の時間を持ちたいと思います。盛んに情報交換が行われ、皆様それぞれの看護実践・研究・教育・就職等のための情報収集や協働の機会となることを願っております。このほかにも、現在の看護学部の教育・研究の状況を卒業生・在学生皆様にお知りいただくことを目的として、会場内に学部の現在のプロジェクトや研究、卒業生の有志の方には現在取り組んでいる看護実践や職場の状況について展示・紹介をしていただき、皆様がお互いに有意義な意見・情報交換ができるようにと考えております。

以上のように、本年度は当学部の設立期から現在までを振り返るとともに、卒業生ならびに在学生、教員の皆様の未来にもつながるような内容を企画しております。是非、多くの方に参加していただき、多彩で豊かな、賑々しい会となることを願っております。皆様のご意見・ご要望もお待ちしております。